

平成21年6月29～30日洪水における 松原ダム・下笠ダム（筑後川水系） の効果について

〔速報推計〕

・梅雨前線の影響により、雨が降り始めた6月29日0時から30日18時までの累計雨量は松原ダム流域で323mm、下笠ダム流域で450mmに達しました。

・6月30日1時20分には松原ダム・下笠ダムあわせて最大流入量は1,836m³/秒、放流量は766m³/秒となり、下流へ流れる水量(ダム通過量)を最大で約58%低減させました。

・特に下笠ダムの貯留量は約25,855千m³となり、歴代第3位の貯留量を記録しました。

・今回の洪水調節により、筑後川の小湊地点(日田市小湊町)が最高水位となった時点では約55cm低下させる効果があったものと推測されます。

仮に松原ダム・下笠ダムにて洪水調節を行わなかった場合、小湊地点でははん濫危険水位を超え、被害が発生した可能性があります。

平成21年7月3日

問い合わせ

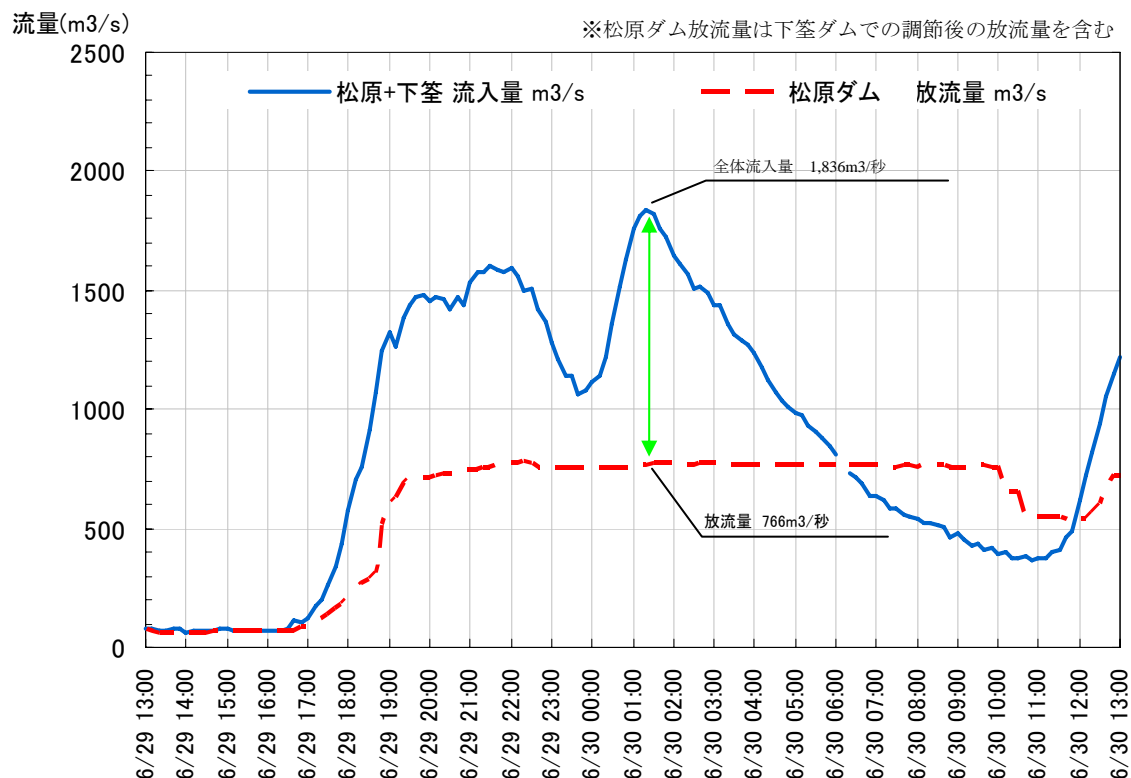
国土交通省 九州地方整備局

筑後川ダム統合管理事務所

管理課長 松岡 忠浩

TEL 0942(39)6651 内線 331

1. 松原・下笠ダムあわせた貯留効果

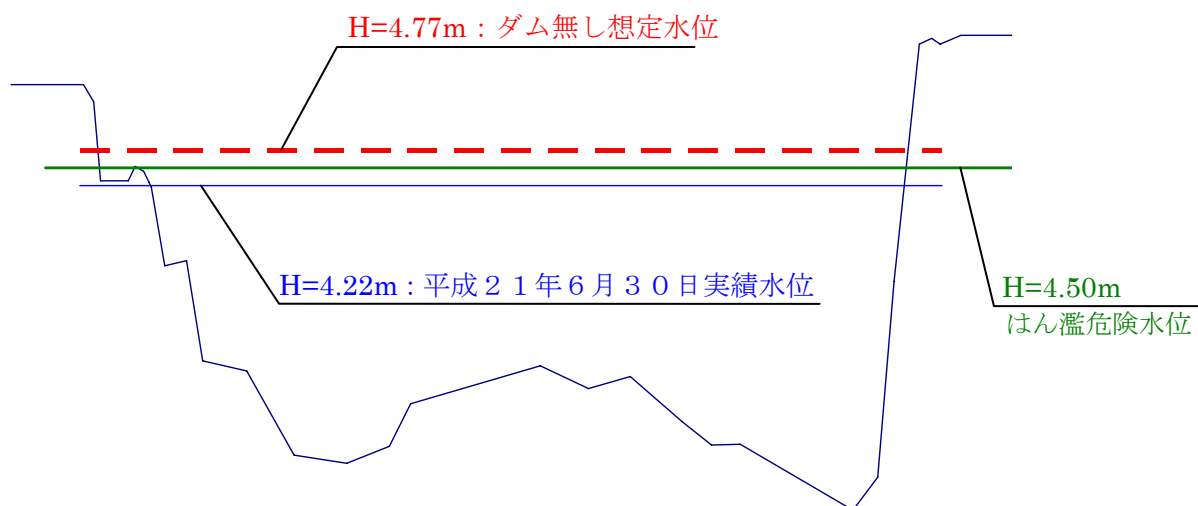


2. ダム有りの場合、無しの場合の河川水位比較

・小湊地点（日田市小湊町）

〔河川の最高水位時における調節効果〕

松原ダム、下笠ダムによって約55cm低下させる効果があったものと推測されます。



※降雨などによって河川の水かさが増し、水防関係者が水防活動の準備を始める水位のことを水防団待機水位、災害の恐れがある水位のことをはん濫注意水位といい、さらに水かさが上昇しはん濫の恐れがある水位のことをはん濫危険水位といいます。

